

加納城下町 MAP

「加納町史」所収「美濃国加納城下図」（城主戸田氏の頃）より復元

- 土屋敷
- 徒士屋敷
- 足軽屋敷
- 中間屋敷
- 町屋
- 寺社
- 堀・河川
- 土塁

西暦	年号	事項	加納城城主	石高
1445	文安2	美濃国守護代斎藤利永が加納城（中世加納城）を築城する		
1567	永禄10	織田信長、斎藤龍興を追放し、稲葉山城を占拠（美濃国入国）		
1600	慶長5	関ヶ原の合戦の前哨戦で岐阜城落城 関ヶ原の合戦		
1601	慶長6	奥平信昌、加納を拝領する	奥平 信昌	(10万)
1602	慶長7	加納城築城開始		
		奥平信昌、致仕し三男忠政城主となる	奥平 忠政	
1614	慶長19	忠政没し、嫡男忠隆城主となる	奥平 忠隆	
1632	寛永9	奥平忠隆没し、加納奥平氏断絶、大久保忠職が城主となる	大久保忠職	5万
1634	寛永11	加納宿創設		
1639	寛永16	大久保忠職播磨明石へ転じ、かわって戸田（松平）光重が入城	戸田 光重	7万
1668	寛文8	戸田光永、城主を継ぎ、弟2人に5千石を分知、6万石となる	戸田 光永	6万
1696	元禄9	城下の大火により、追手門、侍屋敷・町家など焼く		
1705	宝永2	戸田光永没し、嫡男光熙城主となる	戸田 光熙	
1711	正徳1	戸田光熙山城淀へ移り、備中高松から安藤信友が転ずる	安藤 信友	6.5万
1722	享保7	安藤信友、老中となる		
1728	享保13	大火により城下の大半を消失（二の丸・侍屋敷炎上）		
1732	享保17	安藤信友没し、孫信尹跡を嗣ぐ	安藤 信尹	
1753	宝暦3	加納藩家中騒動		
1755	宝暦5	信尹、隠居を命ぜられ、1万5千石を減じ嫡子信成相続する	安藤 信成	5万
1756	宝暦6	安藤信成、磐城平藩へ転封 武蔵岩槻から永井直陳が転ずる	永井 直陳	3.2万
1762	宝暦12	直陳没し、甥尚備跡を継ぐ	永井 尚備	
1769	明和6	尚備没し、長男尚旧跡を嗣ぐ	永井 尚旧	
1782	天明2	大風雨により城の石垣崩れ、堤防が決壊する		
1790	寛政2	尚旧没し、甥尚佐跡を嗣ぐ	永井 尚佐	
1798	寛政10	大洪水により加納城下大被害 加納藩農民一揆		
1802	享和2	二の丸御殿新築 御城高嶺普請		
1839	天保10	尚佐没し、長男尚典跡を嗣ぐ	永井 尚典	
1862	文久2	尚典隠居し、養嗣子尚服跡を嗣ぐ	永井 尚服	
1869	明治2	永井肥前守尚服、版籍を奉還		
1871	明治4	加納藩を廃し、加納県を置く（同年廃される）		
1872	明治5	城門等売却され、取り壊される		
1873	明治6	隅櫓、多聞櫓、塀など取り壊される		
1939	昭和14	加納城本丸跡、陸軍第51航空師団司令部となる		
1954	昭和29	加納城本丸跡、自衛隊駐屯		
1975	昭和50	加納城跡本丸から自衛隊移転する		
1983	昭和58	加納城跡本丸、国の史跡に指定される		



▲加納城南東より加納城下町・岐阜城をのぞむ

▼笠松・名古屋